

茅ヶ崎 自然の新聞

17年9・10月合併号（269号）

【編集】

茅ヶ崎自然の新聞編集委員会

【発行】

茅ヶ崎市文化資料館

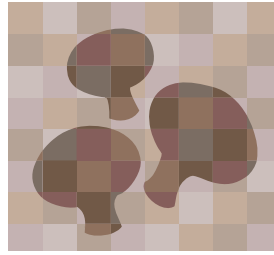
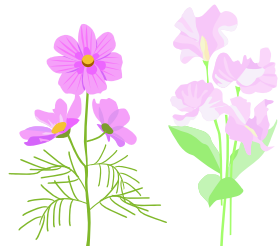
〒253-0055

茅ヶ崎市中海岸2-2-18

TEL&FAX: 0467-85-1733

Mail: shiryokan@city.chig

asaki.kanagawa.jp



柳島海岸の花暦 はなごよみ

9月13日（火）は天気もよく、残暑が厳しい日だった。キャンプ場までの道に、ハマサオトメカズラ（葉が厚く光沢のある海岸性のヘクソカズラ）が咲いていた。フェンスには、クズの花が満開で、辺りにほのかな匂いを漂わせていた。アオツツラフジの緑の実も、藍色あゐいろになっていた。キャンプ場の庭に、多くのイヌビワがあり、黒く熟した実は美味しい。全草ぜんそうに軟らかい毛のあるヒヨドリジョウゴ（ナス科）は、今花の時期で、秋の終わり頃には、赤いきれいな実をつけ、ヒヨドリが喜んで食べるという。ミズヒキがとても綺麗に咲いていた。ムクドリむくどりの群れもいた。もうアキノノゲシが2株咲いて

いる。ここはケチチミザサが多い。

海岸に出ると、そこにキンノエノコロが群生していた。潮風で穂の色が悪く、金とはいえないが、他のエノカログサよりがちりと穂をつけている。

サイクリングロードを歩くと、ツルマメガが咲いていて、「こんなところに！」とびっくりした。しおさい公園では、垣根にセンニンソウが咲いていて、海の近くでこれを始めて見た。公園を出て、一回りし、今日の最後にハマカンゾウが咲いているのを見つけた。殖栽しょくさいかもしれないが、この砂浜に似合っていた。そして草むらで、「ギューーチョン」とキリギリスが鳴っていた。

（東海岸南 吉田弥生）



キンノエノコロ



クズの花

Nature of Chigasaki in Brief

茅ヶ崎自然情報

ツマグロヒョウモン

7月の下旬頃から、赤と黒の派手な模様の幼虫が、片付け損なったビオラのプランターに卵を産みました。8匹の幼虫を数え、蛹が5個になりました。蛹が孵るのを楽しみにしていました。このとき、植木のあたりから飛び立つすずめがいました。その時は気にもとめませんでした。後でプランターを見に行くと、蛹も幼虫も1匹もいないのです。がっかりしてしまいました。かろうじて、隣の鉢の角に1個蛹が残っていました。もう取られない様にと、網をかぶせました。

8月15日前後でしょうか。無事ツマグロヒョウモンが孵りました。

（市内 野田瑞江）

フッソウな漂着物、東海岸に

台風12号と13号が、本土や本土沿いの太平洋上を通過した。前回7・8月号にアカウミガメの死体の漂着情報を提供したヘッドランド東側の海岸に、筒が打ちあがった。詳細に記述すると、漁師の徳網の船置き場とヘッドランドの胴の部分の中間点くらいに、アルミ製の長さ112cm、先端開口部が直径17cmの筒が打ちあがった。

開口部の周辺に、エボシガイが繁殖していた。このエボシガイの成長度合から想定される日数は、2週間くらいの漂流日数が推測される。この珍客が、茅ヶ崎東海岸に漂着した。出所は明らかでないが、黒潮と台風によって当地に上陸した事は事実である。筒の表面に英文で、"Ammunition for cannon with explosive projectile" と印字があった。判り易く訳すと、「大砲用の砲弾」

になる。"Explosive projectile" と言うのは、最近の用語で、ロケット、ミサイルなどの「爆発物発射体」という訳が付く。漂着物は弾頭がなく、薬莖（ヤッキョウ、爆薬が詰められた筒の部分）の部分と思われる。爆薬は全くなく、軽量のアルミの筒だけになっていたのでポカポカと流されてきたに違いない。

上記のようなブッソウな漂着物も日本海側には、打ちあがっているのではないだろうか？このような漂着物は、私の知る限り茅ヶ崎海岸では、この20数年間に2件目になる。



全体



印字部分（拡大）

（菱沼海岸 井川洋介）

小出川の花暦

9月20日、自宅近くの自然が好きな方たち4人で、小出川の土手を歩きました。お天気は曇りで、最高気温25℃の予報で、涼しくなると期待していましたが、雨が近いようで蒸し暑く、蚊に悩ませられての観察会でした。

小出川浜園橋の右岸から始めましたが、最初は植物の開花状況を記録するのに慣れなくて、結構な時間がかかりました。ヨモギやメヒシバなどを手始めに、目に付く種を◎、○印などを付けるのですが名前も確認しながらの作業でした。

まず、白いゲンノショウコが護岸に点々と咲いているのが見られました。ツユクサ、イシミカワ、エノキグサ、アカネ、ホシアサガオ、イタドリなどの小さいけれど綺麗な花が咲いていました。

オニグルミ、ムクノキを観察して、しばらく行くと僅かですがエノキとジャヤナギの並木があり、「あれは、何？」という声でエノキの葉に止まっているゴマダラチョウを皆で見ることができました。1頭でしたが、産卵する場所を探しているかのように飛び回っていました。

浜園橋の入り口の所では、ジョロウグモがよく見られましたが、途中からはナガコガネグモが多く見られました。バッタも多数飛び跳ねていましたが、トノサマバッタかクルマバッタかは確認できませんでした。

マメ科の花は、クズが良い香りを漂わせ、ヤブツルアズキやツルマメがいたるところで見ることができました。萩園橋から上流にはツルフジバカマが美しく咲き、他にもママコノシリヌグイやシロバナサクラタデなども見られました。

左岸を歩くとクズが勢力を伸ばした場所が続き、その中にセンニンソウがあり、土を持ち込んだ場所にはダキバアレチハ

ナガサ、ヤハズソウ、川側の土手にはオオニシキソウなどが目立ちました。

蝶ではアゲハチョウが多く見られ、キタテハ、ベニシジミ、キチョウ、モンシロチョウ、ヤマトシジミ、トンボはシオカラトンボのみが飛んでいました。

野鳥はダイサギ、カルガモ、カウウが川の中にいましたが、3日前に下見した時にはカワセミヤコガモ2羽もいました。

セイタカアワダチソウに付いているアブラムシ、テントウムシ、アリの関係を皆で確認しあったり、ヨシについているクモの話の聞いたりと楽しく時間が過ぎていきました。小出川周辺で、身近な植物を仲間と観察しながら歩くことは、何よりのリフレッシュになりました。

（浜之郷 河野正子）

秋のシジュウカラ

9月の最終週～10月の第2週までの3週間、毎週1回シジュウカラが、資料館の事務室南側にかけてある巣箱を見にやってきました。10月3日には、巣箱の中に1匹入りました。

来年にむけて、巣箱の下見でしょうか？この新聞を読んでいるみなさまのご近所ではいかがですか？目撃情報などありましたら、文化資料館までお寄せください。



電線にとまるシジュウカラ

（文化資料館 須藤 格）

柳島海岸の花暦(2)

3、4日前には10月下旬頃の涼しい気候でしたが、花暦を行った10月3日は湿度が高く、歩くと汗ばむ程でした。メンバー4人で、まず県立柳島青少年キャンプ場入り口に着くまでの浜見平団地の脇で、ホシアサガオが可愛い花や実になっている状態を見ることができました。

キャンプ場を左手にして、歩道の両側を歩くとネズミノオが目立ち、カタバミがチラホラ咲いていました。途中で周りが綺麗に刈られて入りやすい所からお邪魔させて載いて、たくさんのジョロウグモの網をくぐりながら進みました。ハマサオトメバナ、ケチヂミザサ、ヒメユズリハなどを見て、ハマボウフウが保護されている場所では花の後にバラバラになった実が、たくさん集まって落ちている様子を面白く観察しました。

あちらこちらで、小さなオオフタバムグラが一面に咲き、オオアレチノギクとヒメムカシヨモギの比較が解りやすい場所がありました。以前にマンテマが群生していた場所は姿が見当たらず寂しい状況でした。

キャンプ場の管理人さんに挨拶をして、一休みしながらメヒシバとアキメヒシバをしっかりと調べようと湘南植物誌を開いていると、石井さんがこれに似ているのがあると図を指したのが、クシゲメヒシバでした。アキメヒシバはなく、メヒシバの中にクシゲメヒシバが数多く混じっていることに気づき嬉しくなりました。

キャンプ場の木本で一番多い種はクロマツだと思いますが、それについてイヌビワが多い場所です。その中に花を見ることがないクサギが何本かあることに気がつきました。その後、センダングサを確認して海岸に出ました。

ケカモノハシの株やハマアカザを見てウンランが群生している場所がありました。フシゲチガヤやテリハノイバラの実が群落になっている場所を過ぎて、渚の散歩道に入ります。ハイメドハギの意外に大きな花が美しく咲き、「ツルマメが枝豆の原種ですよ」などの声を聞きながら観察していきました。

前述のクシゲメヒシバは、海岸のメヒシバやオヒシバの中にも何本も見ることができました。見慣れた草でも、皆で図鑑を開くことで、思いがけない発見があることを実感した日でした。

(浜之郷 河野正子)

台風11号 関東を襲撃

去年の自然新聞10月号に、台風22号のことを書いた。今年の8月20日発生した台風11号は、それとほぼ同じようなコースをたどった。

去年の台風22号は、石廊崎から相模湾を横切り、千葉県の船橋へ上陸し、千葉から茨城県へと抜けていった。

今年の台風11号は、東海・関東へ上陸するかのようだったが、静岡県へは上陸せず、相模湾を東北に進み、鎌倉の南を通り、横須賀方面にせまり、午前1時過ぎ上陸し、千葉市へ再上陸した。さらに成田空港付近を通り、茨城県へと達し、8月28日、北海道沖へ行き温帯低気圧になった。

台風11号の記録は次のとおりである。

8月25日、近所では、1日中風雨が激しかった。24日より紀伊半島の東側を北上し、8月に来る台風にしては東寄りであった。それは日本海の方に強い高気圧があり、北上をはばんだためである。中心気圧は965hPAで、時速15kmで進んでいた。自転車の走る速度と一緒である。

石廊崎では、風速42.4mであった。

夜中に満潮と重なり、警報が出されていた。

空の便は、羽田発着は欠航、鉄道各線も運休が続出した。箱根～江ノ島行ロマンスカー、中央線は特急あずさ号、東海道線の踊り子号やあさぎりなどが運休した。

浅草雷門の大提灯もたたまれた。

夜に入り、中心気圧が965hPAで、時速25kmであった。

26日朝10時頃、千葉市付近に再上陸、勝沼では風速38.5mであり、箱根は総雨量が565mmで50年来の記録となった。箱根湯本の学校の体育館の屋根が吹き飛んでしまったり、また共同町温泉湯温度調整施設が土砂で埋まったり、給水出来なくなったりした。

26日は台風一過だが、まだ曇天であった。

台風12号は、台風11号より早く、25日には関東沖で温帯低気圧になった。

28日には13号が強い勢力で、夏台風とかで沖縄石垣島方面から、中国大陸へ向っている。

（※本稿は、8月31日の記録です。）

（若松町 樋田豊宏）

夏休み自然教室'05

7月に開催した「夏休み自然教室」については、先月号でも報告しました。今回は、自然教室に市民ボランティアとして協力していただいた方や、参加した小学生からのお手紙などを紹介します。

（文化資料館）

● クラフトワーク

溪流釣・山草摘みが好きな夫が、拾い集めた枯木、木の実や樹皮などを材料に作った鳥・虫などのクラフトを、資料館に飾らせていただいています。それを見た資料館の附田先生が、「今年の自然教室に一つコーナーを作ってみては」と

声をかけて下さいました。それを受け「森の宝物」と題し、クラフトコーナーを設け、齋藤健治・金子栄司・齋藤溢子が担当しました。

当日は、参考作品にクマ・鳥・昆虫を作って飾りました。拾い集めた大小の木々、サクラ・シラカバ・ダケカンバなど木肌に特長のある木々の枝や皮、木目が目立つ木々を薄く裁断したもの、松ボックリ、木の実、竹の細い枝など山に落ちているものばかり、たくさんの材料を机の上に並べました。

参考作品を見て、多くの方々が目に止めてくれました。

挑戦しようと思う方には、まず何を作ろうか、どんな材料で作ろうか、スタッフと一緒に考えました。作りたいものが決まると、この材料で顔を、これで目を、口をと、次々イメージが湧き、楽しそうに接着剤を使い作りあげていました。中には、子供と一緒に作っているうちに、父兄の方も夢中になって目を輝かせていらっしやいました。スタッフ3人、道具も少なく、皆さんの要求すべてにお答えできなかったのではという反省もありますが、大人の考えも及ばないような意外な発想で作り上げている子供を見て、大人達は本当に驚かされました。

東海岸小学校の4年生のある男の子はすっかり気に入って3日間通って来ました。最後の日には、材料をうまく使い滑り台、椅子などを仕上げていきました。



一生懸命に創作中



子どもたちの作品



大盛況!

最後にアンケートの中に嬉しいお言葉がありましたので掲上させていただきます。

『カービングの先生、木工の先生、素晴らしい指導ありがとうございました。子どもに丁寧に作業すること、最後まできちんと仕上げる大切さを学ばせてくださいました。作品はいつまでも宝物にします。』

(東海岸南 齊藤益子)

● 文化資料館のみなさまへ

夏休み自然教室に参加させていただきありがとうございました。

作った物を自由研究としてレポートを書いて学校に出しました。コピーを一部送りますので見てください。

一番おもしろかったのは、鳥の巣箱作りです。のこぎりで、切ったり、かなづちで釘をうったりするのがおもしろかったです。

今回は、巣箱作りをしたので、バードカービングは出来ませんでした。他の人が、木を鳥の形にほって、やすりでこすって、きれいな、鳥を作って、最後に色をぬっていました。来年は、私もぜひ挑戦してみたいです。

来年は、一日でなく、何日も参加しようと思います。



自由研究のレポートの表紙



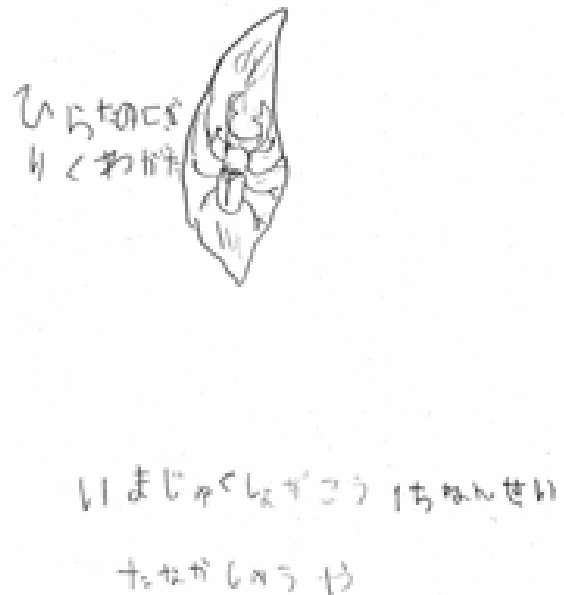
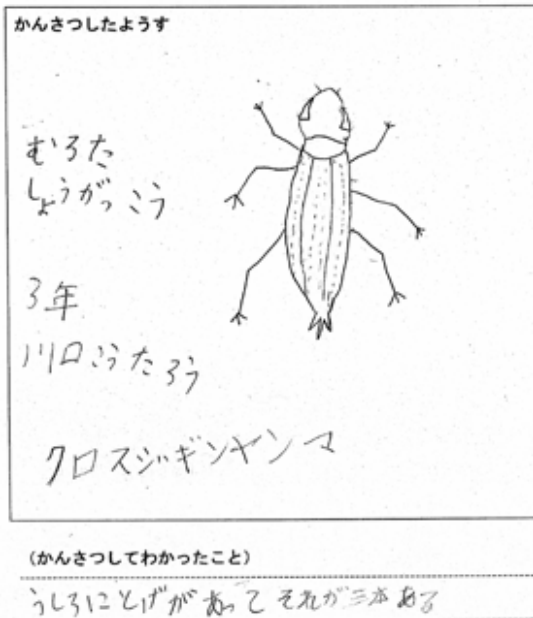
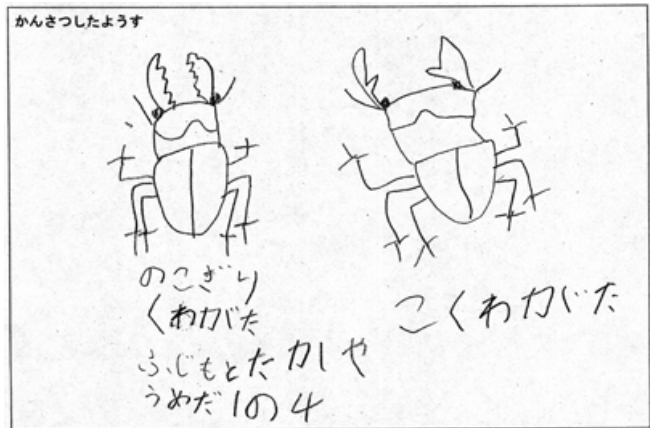
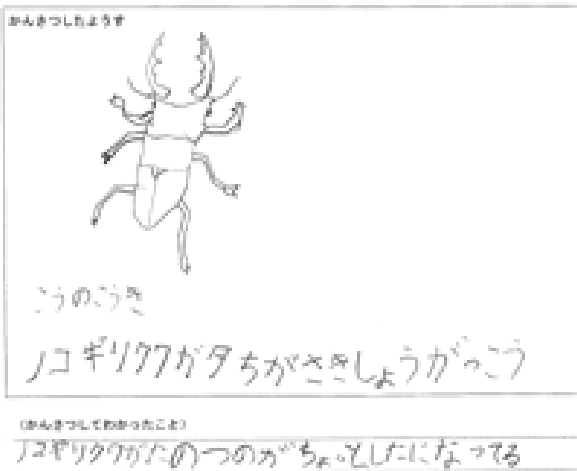
藍染体験の様子

(小和田小学校 5年2組 三木那奈子)

● 自由研究

自然教室の昆虫コーナーで行った、自然観察の記録を、紹介します。

（文化資料館）



昆虫コーナーの様子



昆虫と触れ合う

マリーズが訪ねた 横浜の園芸家アカサブロー

暑い季節には、ツリシノブの風鈴の音がさわやかに感じられる。このシノブの学名は、*Davallia maresii* Moore ex Baker で、*maresii* は英国の園芸家マリーズ（チャールズ・マリーズ1850-1902）によっている。

マリーズが1877年（明治10年）ごろ、横浜に来た時、横浜で最も有力な園芸家であったアカサブローを訪ねている。そこでは、鉢植えのラン類、シュロ、カエデ、シダ、ソテツ、ゼラニウム、マツなどを販売していたという。

このアカサブローは、誰を指すのか筆者には長い間わからなかった。アカサブローという名は、日本人の名前としては少しなじみがないので、アキサブローではないかと思っていた。

先年、「横浜植木」が創立100年を迎えた。それを記念して出版物を出している。この記念出版物は、横浜植物会の会員中尾まゆみさんの紹介で、筆者にも送られてきた。この記念誌を開いて見ている時、飯島秋三郎という氏名が目に入り込んできた。

氏は横浜植木会社に勤務し、米国のオークランド支店長を務めた方であった。

筆者の父、小原敬介は、盛岡農学校を卒業し、のち独力で渡米しパロアルトハイスクールを卒業し、州立カリフォルニア大学農学部を経て、州立ミネソタ農科大学畜産科を卒業した。

その間、13年を費やしている。のちサンフランシスコの日米新聞の農業関係の記者をし、オークランドに住んでいた。

それで、横浜植木のオークランド支店の事も知っていたと思う。

のちに父は、南満州鉄道株式会社熊岳城農業学校長兼熊岳城農業実習所長に就任している。そのころ、横浜植木からタネや苗木を購入していた。

筆者もオークランドで生まれたので、飯島アキサブローと細い糸でつながりがあるような気がする。また、物事を調べる時は、根気よく、ずっとその事に感心を持ち続けていれば、思いがけず解決の糸口がつかめる事がある。正に” たたけよ さらば開かれん” である。

マリーズの経歴は、春山行夫著「花の文化史—花の歴史をつくった人々—」講談社（1980年7月発行）によった。

（藤沢市藤が岡 小原 敬）

いちじょう 銀杏の乳

銀杏には、色々な不思議な話がある。その中の一つに乳がある。乳根、乳柱とも呼ばれる。乳は、普通オスに出来ると言われる。メスには実がなるが、オスにはならないので、その代わりに、養分が乳根となる。乳根の有無で、オス、メスの違いが分かると言われる。また実がなるメスは、実の重みで枝が垂れ下がるため、遠くの方から自然体の樹を眺めた時、竿を逆さにした型になるのがオスで、枝が下がっているのがメスであると見分けることもある。

しかし、これは乳根ができるのは自然体での話しであって、樹が屋敷の日陰になると言って切ってしまうと、メスでも乳が出来る。そうするとオス、メスの区別がつかない。

先日、萩園の日枝神社の鳥居のそばにある東側の樹に、小さいがたくさん乳根が出来ているものがあつた。枝が切られた跡があつた。芹沢の来迎寺、善谷寺に

は関東大震災の記念に植えたというイチョウがあるが、枝が切られておらず、乳はなく、実が数多くあった。

市外で乳が出来ているイチョウを、いくつか紹介する。宮城県登米市のは大小合せて約30本あり、栃木県上三河町のものは「子育て銀杏」と言われている。また長野県生坂村のものは、県の天然記念物に指定されている。



イチョウの乳
(若松町 樋田豊宏)

貝の展示物と文化資料館と活動する会

1990年頃、茅ヶ崎の海岸で拾い集めた貝、約150種類を資料館の展示物として自然学習のために展示を行った。当時、貝の種類に名をつけるという作業は大変な仕事だった。

まず貝に詳しい人を見つけることの方が、^{すかかん} 図鑑を調べる以上の苦労があった。葉山のしおさい博物館の学芸員池田氏にお世話になる事を決め、^の 延べ3ヶ月間同博物館に足を運んだ。さらにどのように資料館の^{ちんれい} 陳列^ば 棚にレイアウトするかを考え、2ヶ月掛けて何とかケースに収納した。

その後、小学校からの見学も増え、資料の公民館への貸し出しも多く行った。陳列のみを^{ねんとう} 念頭^{しやうしやう} に製作したため、諸所

にはがれが生じ、こぼれ落ち、すぐ補給できる用意はこちらには無く、その後14年間そのままの形で保管されてきた。（現在、資料館2階の階段を上ったところに展示中）。

1991年、「文化資料館を活性化する会」を結成し（後に「文化資料館と活動する会」に変更）、市民ボランティアの講演会グループを組織し、市民の自主運営の講演会を年間行事とした。その第1回目に、『漂着物の楽しみ』という講演を行った。海岸は当時ゴミが多く、県や市の力では全く手がつけられず、これまた市民ボランティアの出る幕となっていた。

しばらく後、第1回目の講座に出席した白浜町の香川さん（故人）から、ウミガメの産卵のニュースが入った。県のなぎさ事務所のブルドーザーが、ときどき海岸を清掃のため走るの、早く手を打たなければと考えた。早速、当時藤沢市にあった事務所に港湾課長を訪ね協力を申し入れた。課長を現地に案内し、協力をいただいた。3ヶ月後、カメの赤ちゃんが海へ出るというので、当時自然学習で関係があった松浪小学校の加藤先生に声をかけた。先生から、「今年の夏、名古屋の臨海水族館へ研修でウミガメの勉強に行っていたので、ぜひ私にリードさせて^も 貰いたい。」との依頼があった。渡りに^{ふね} 舟だった。仲間の市民ボランティア全員も喜んだ。グループの人達が毎晩交代して、観察を行った。低気圧の過ぎたある夜、香川氏から連絡が入り、「卵がほとんど殻になりました。1匹だけ穴の底にいます。」とのこと。このことを加藤先生に相談すると「早速今行きます」といい、ビデオカメラと懐中電灯1本持ってきた。穴からカメの稚児を掘り出し、私が懐中電灯で照らし、カメが光に向かってヨチヨチ歩く姿を先生がビデオをまわして撮影した。その

ときテープに記録したことを、資料館便りに投稿した。

ところで、その頃茅ヶ崎海岸では国内の生活ゴミの山に加え、黒潮に運ばれて東南アジア諸国から紙パックや洗剤、化粧品の容器であるプラスチック製品が到着していた。島崎藤村の詩にも詠われた椰子の実^{いしだま}は、遠き国からの情報としてマスコミの話題にもなり、茅ヶ崎の海岸は有名になった。

しかし、1996年頃から日本のバブル景気の衰退^{すいたい}とともに、これらの遠き国からの紙パックが減少傾向を示した。理由は全くわからないまま、今日にいたっている。数年前、古紙回収業者と話しているうちに、ヒントらしきものを得た。日本の古紙はリサイクルされずに中国へ輸出されていくらしい。現在の中国の景気よさ鉄鋼製品の価格上昇と同様に、紙類の価格も上昇しているであろう。



漂着したパックなど



採取した貝類
(菱沼海岸 井川洋介)

文化資料館の目



～種の散り方～

「こんなところにタンポポが？」と疑問に思ったことはありませんか？コンクリートの割れ目や石畳^{いしだま}のすき間から、かわいらしい花が顔をのぞかせているのを見かけることがあります。いったい種子^{たね}はどうやって、たどり着くのでしょうか？

植物は、種子をただ地面に落とすのではなく、遠くに飛ばすさまざまな工夫を身につけています。

● はじき飛ばす

カタバミやゲンノショウコウなどは、種子が育つと、包んでいた皮が裂けて急に反り返ります。その反動で遠くに種子をはじき飛ばします。

● 風に乗る

種子に翼をつけたマツ、プロペラをつけたカエデ、落下傘をつけたタンポポなどがあります。タンポポの種は下向きにトゲがあり、地面を転がらないようになってます。

● 水に浮く

ネコヤナギやオニグルミ、ハマユウなどは種子を水に落として運ばせます。

● 動物に便乗する

この方法は2通りあります。鳥や草食動物に食べられ、糞^{ふん}とともに落とされ散るものと、かぎ針状の毛で動物や人間の衣服にくっついて運ばれるものです。自由に動き回れない植物が、自由な動物や人間に便乗するのは、すごい知恵ですね。



カエデの実
(文化資料館)

Information

案内

お知らせ

- 「茅ヶ崎自然に親しむ会」
『横須賀・黒崎の鼻に行く』
日時：10月16日(日)
問い合わせは
安井利子(52-3856)まで
- 「清水谷を愛する会」
『定例清水谷観察会&保全作業』
日時：11月6日(日)9時30分
～15時
集合場所：市民の森駐車場(堤)
問い合わせは
田部許子(51-2955)まで
- 「柳谷の自然に学ぶ会」
『谷戸散策会(レインボーフェスティバルに協力)』
日時：11月13日(日)
集合場所：里山公園
問い合わせは、
野田晴美(51-8489)まで
- 「三翠会」
三翠会では、市内の川や水辺の生きもの
の調査やタゲリをはじめとする野鳥観察、
お米(タゲリ米)づくりのお手伝いなど
に取り組んでいます。ご協力いただける
方は、下記までご連絡下さい。
事務局：河村まき子(87-8313)
- 「大庭自然探偵団」
『遠藤笹窪谷』
日時：11月13日(日)
10時～14時
問い合わせは、滝沢まで
(0466-88-5306 夜間)
- 「駒寄川水と緑と風の会」
『第17回香川公民館まつり』に参加
日時：11月4日(金)～6日(日)
問い合わせは、
池田尚子(52-8919)まで

★ 次号の原稿の締め切りは、12月10日(土)までをお願いいたします。

★ 文化資料館のホームページを、更新しています！チェックしてみてください。
<http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/newsection/shougaku/shiryoukan/index.html>

★ 「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館」のホームページをみてみよう！

http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/newsection/shougaku/bunkazai/marugoto/index_marugoto.html

(文化資料館)

記事募集!

自然の新聞では、様々な方からの投稿をお待ちしております。今回は、「夏休みに出会った自然」に関する記事をお待ちしております！メール、fax、手紙でOKです。

FAX：0467-85-1733

メールアドレス：

shiryoukan@city.chigasaki.kanagawa.jp
までよろしくお願いします。

(文化資料館)

発行について

いつも「茅ヶ崎 自然の新聞」をお読みいただきありがとうございます。これまで毎月発行しておりました、自然の新聞ですが、今月を含め、文化資料館の都合により、合併号というかたちで、2ヶ月分をあわせて発行することが今後もあります。みなさまにはご迷惑をおかけしますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

(文化資料館)